



大阪錦画日々新聞紙第31号

安房国中村の百姓の寡婦鈴

水彌生といふ子供

三人のりある御寺の住持と
不義にて花も弥生の
うそ梅陽
の春心又此家
の後見善左門と
馴れあつてを男の
さ房をうつて
後家へのやみを云うと弥生は更面をく男が
しも却て泊る来るをモシ善左門とて中におもひ
へ知ると大泣きをぬ思ひ切て下されと云ふ男は逆上りなり和尙の
心だう立ちとて弥生の毛刀取出し切とぬが刃で死なるとおぼしめし
ちてぐをまらざるゝとて取り取る拍子に女は死なばとて
騒み子供起出てさあうらうらふ痴をうけず
只逃出てうらうら高声お男はいくともが狂ひ
出ると天網の買ひのうらうら事候とて西へ御まゝ上り候とて善左門は集首弥生は

懲役申渡されり
名情慎の弟
と讀責
九十八号の出来
あり九一
物と書ね
岡土正受ね

小僧の影